

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2370401446
法人名	有限会社 マザーズ
事業所名	グループホーム円頓寺北館
所在地 (電話番号)	名古屋市西区菊井1丁目2番4号 (電話) 052-583-3166

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成20年1月23日	評価確定日	平成20年3月13日

【情報提供票より】(平成19年12月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,800 円	その他の経費(月額)	7000円~(水道光熱費他)	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76 歳	最低	55 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松久医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>大通りに面し、都会の下町と表現できる昔ながらの町並みの軒ならびに、何の違和感も無くホームは位置している。「人生楽しく自分らしく」の理念は、中で暮らす利用者・職員に浸透し、当たり前のことを当たり前のように、やれることをやれるように、感激を覚えるほど自然体の生活があり、利用者同士・職員同士、さらに利用者と職員が支えあって時間を過している。開設後2年、管理者の変更は無く、職員の入れ替わりもほとんどない。ホームの雰囲気も変わらず、いつ誰が来ても、いつもの雰囲気を保ち続ける管理者・職員の努力、意識の高さを高く評価したい。今後も、熱意と意欲のある支援継続に期待のできるホームである。</p> <p>最後に、ホーム職員の「家族ではないから家族の代わりになりたい」というホームの介護意識とも言える印象的な言葉を特記したい。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画見直し・評価(モニタリング)に関する課題については、専任のケアマネが課題解決に取り組み、利用者の落ち着いた生活を確保している。ホームの運営体制に関しては、次回評価時が開設から1年足らずの時期であったこともあり、運営に若干の不備も感じられたが、今回評価では見事に解決され、運営体制に不安はない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームでは自己評価を振り返り、職員間で課題の把握に努め、日常支援の中で改善に向けて取り組んでいる。取り組み課題とされる項目には今後の目標が記載され、ホームの積極的な姿勢がうかがえる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地域住民の意見・要望の聴取、ホーム主催イベント開催後の反省、地域課題の把握等を行い、地域住民・民生委員との交流を図っている。しかし、地域代表・行政関係者の参加・出席は難しく、運営推進会議の活用は現在のグループホームにとって課題のひとつである。今後の取り組みに期待したい項目である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月定期的に利用者の近況を報告し、家族に利用者の生活を知っていただくことでホームへの意見を出やすくし、意向の吸い上げに努めている。また、運営推進会議・家族の訪問時等、機会ある毎に意見・要望の聴取に努め、日常支援への反映を職員間で話し合い、利用者・家族の要望実現に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のイベントである盆踊り・お祭り・選挙等にホームをあげて積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。しかし、残念な事に、ホームの開設以来からの働きかけも未だ実を結ばず、自治会への参加は認められておらず、協力を得るまでに至っていない。今後月日が経て、ホームの地域住民としての暮らしの時間の長さが問題解決の糸口になるとも考えられるので、ホームからの地道な努力・働きかけの継続的な取り組みをお願いしたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「人生楽しく自分らしく」を掲げるとともに、「グループホーム円頓時北館のめざす役割」をホームのパンフレットにわかりやすく明示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念実践を目指し、ホームの会議等で意識の統一を図っている。また、利用者の生活を支える基盤として、意識の共有も図り、報告・連絡・相談の徹底を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り・お祭り・選挙等、地域の行事にホームをあげて積極的に参加し、地域住民との交流の機会作りに努めている。地域行事に関しては学区の境に位置していることもあり、隣接の学区行事にも参加し、交流を行っている。		地域とのかかわりについては、その地域性が大きな問題となることから、まずはホームが地域住民として根付く必要性を感じる。時間が解決する問題も多いと思われるので、今後も継続的な取り組み努力を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームでは、自己評価・外部評価を通して日常支援を振り返り、職員全員で課題を抽出し、課題解決に取り組む等、利用者にとってのより良いホーム作りに活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域住民の意見・要望の聴取、ホーム主催イベント開催後の反省、地域課題の把握等を行っており、地域住民・民生委員等との交流の場となっている。		「報告の場」から「相談の場」への移行時期も到来していると思われることから、ホームの困りごと(地域との関り・自治会加入等)の相談の場となるよう、「聞き手」の選抜に一考をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の担当の来所、随時の相談等、関係作りへの取り組みはある。しかし、行政との協働までには至っていない。		名古屋市自体に具体的に事業所と共にサービスの向上を目指すという取り組みがなく、事業所の戸惑いが否めない項目であるが、まずは最新の情報収集・情報交換、困りごと相談等を通じ、行政担当との関係作りへの取り組みに期待するところである。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の状況報告を行い、必要時には電話にて家族との連絡を取り合っている。また、毎月請求書と共に、利用者直筆の手紙を同封する等の取り組みもあり、ホームの利用者家族に対する積極的な働きかけがうかがえる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談機関を明示し、利用開始時には口頭での説明を行っている。また、運営推進会議・家族訪問時等で家族の意見・要望の聴取に努め、職員間で話し合い、運営・日常支援への反映に取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人グループホームの職員研修の拠点になっており、研修終了と共に他ホームに異動することが多い。しかし、馴染みになった利用者には前もってその旨を説明する等配慮し、混乱軽減に努め、利用者の落ち着いた生活を支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は利用者に対するホームの役割・機能を十分に理解し、職員の指揮・指導に当たっている。ミーティングを利用した勉強会・情報伝達等を適切に行い、全職員同対応の支援を目指している。また、外部研修参加についても、職員からの希望も多く、積極的な参加を推進している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内・隣接区の4グループホームが連携し、月1回のコンソーシアムを開催している。職員勉強会・研修会・交換実地研修等、情報交換も含め、自ホームのサービスの質の確認・評価、さらなる向上に向け、熱心な取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族がホームを事前見学し、ホームの特色・雰囲気伝えるようにしている。また、入所後は職員の見守りを徹底し、本人・家族の不安軽減のためにフォローに努めている。ホームの特色として、利用者との「話し合い」の深さを評価したい。その人らしさを探る第一歩としての「会話」が功を奏している。</p>		<p>ホームのわずか一日にも満たない日中の視察であったが、職員は常に利用者寄り添い、支え合う光景・雰囲気自然さに感動を覚えた。「家族ではないから家族の代わりになりたい」という職員の言葉が印象的であった。ホームの特色ともいえるこの自然体の取り組みの継続、ますますの支援努力に期待したい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で自然に関係を築いている取り組みがよく理解できる。利用者の得意な事・趣味等を把握し、適切な場面で出番を演出している。利用者同士の関わり・関係もかなり深く、喜怒哀楽の表現も非常に豊かである。職員は利用者を見守り、共に分かち合いながらの生活がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、日常生活の中で、利用者の思い・意向の把握に努め、利用者本位の介護計画に反映させている。また、日常の記録には、職員の気付き、利用者のつづきまでもが細かく記入され、本人本位の意向の検討に活かしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>二週間に一回行われるユニット会議で、利用者一人ひとりの状態について意見交換し、職員間で情報を共有すると共に、介護計画への職員意見反映を実践している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者は、一ヶ月ごとの介護計画見直し、また、三ヶ月ごとの目標見直しを行い、6ヶ月に1回はICFを取り入れ、利用者のための計画立案に努めている。さらに、現場の職員が計画内容を日々の支援に落とし込みやすいようにしたい、と信念を持って取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師(非常勤職員)による定期的な健康管理、適切な体調管理を行い、早期に医療機関と連携できる体制を築いている。また、24時間の見守り、緊急対応についても体制化を図り、利用者・家族の安心につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に沿い、かかりつけ医の受診支援をしている。利用者・家族と納得の行くまで話し合い・説明を行い、提携医・希望医利用のいずれの場合も、要望に沿った適切な受診支援に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の希望・意向の聞き取りを行い、適切な支援を目指している。今後、提携医との協議を含め、職員間での方針の確立・共有を課題としている。		終末期のホームの役割は医療支援のみではなく、利用者の安心の支援であると思われる。利用者本人が終末期をホームで望む場合、かかりつけ医との方向性の一致は利用者の心身の負担の軽減につながると考えられるので、今後も利用者の意向本位の積極的な取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、目上の方から教えていただくという姿勢で日常支援を行い、利用者個々の尊厳を大切にしている。訪問日当日も、丁寧な言葉遣い・気配りの行き届いた支援を行っていた。また、記録への配慮も指導が成されており、適切な表現での記録が確認できた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活の大まかな日程は決まっているが、買い物・散歩等の外出は、ほぼ利用者の自由となっており、利用者の生活スタイル・リズムの継続に努めている。また、職員側の仕事を流れを利用者に察知されないように配慮し、常に寄り添い、一緒に行う支援を徹底している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの決定・買い物を含め、食事終了までの全般を利用者と共に行っている。調理をする作業を、自分の作った料理を誰かがおいしいと言ってくれる喜びへと繋げ、さらに、馴染みの同居人が自分の為に食事を作ってくれる喜びを味わっていただき、と、利用者が笑顔で食事できるように取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に要する時間・入浴の順番は、利用者の希望に沿い、支援している。入浴の順番・時間・タイミングには利用者それぞれのこだわりがあり、それを尊重することで、利用者間での解決につながり、適切な支援となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの雰囲気や日常的な支援がうかがい知れる。一つの例では、洋裁をされていた利用者のコースター・トートバック等、手製の品がホームで活用され、視察時に製作者の方に溢れんばかりの笑顔で自慢の品を見せていただいた。職員も作品を喜び、利用者のやりがいへと繋げていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩等の外出は自由であり、利用者の自立外出となっている。家族への説明を密に行い、場合によっては後方見守り・同行等の支援も徹底して行っている。調査日の視察でも、雨の中を買い物から帰る利用者の姿があり、食材の買出しを自身の役割とする、利用者の強い意志・達成感が感じられた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは、ほとんどの利用者が自立外出となっているため、玄関の施錠はしておらず、利用者の動きは、職員の見守り・センサーにて対応している。逆に、自室の施錠を希望する利用者もおられ、柔軟な対応を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団等は活動しておらず、ホームの災害対策の協力は得られていない状況である。ホーム独自でできる範囲の取り組みは行っているが、十分といえない状況が否めない。		災害対策は、地域の協力を最も必要とするところである。運営推進会議を活用し、災害対策の必要性を提示しながら、継続的な呼びかけ・話し合い等の取り組みに期待するところである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を考慮し、栄養バランスも考えた食事提供に努めている。提携医・栄養士とも連携し、水分量・栄養バランス等に専門的なアドバイスを仰ぎ、適切な支援につなげている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓は防音ガラスとなっており、大通りに面しているにもかかわらず、外の騒音はホーム内に全く入ってこない。室内環境は、採光・照明・空調とも適切に管理され、時折窓開け換気を行なう等、利用者にとって快適な空間提供となっている。共有空間は、利用者・職員の冗談を言い合う笑い声で溢れ、明るく楽しそうな雰囲気であった。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物品が多く持ち込まれ、それぞれの個性が溢れた「自分の部屋」となっている。物品の多さからも、ホームの積極的取り組み・家族の協力がうかがえる。		